

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学術)	氏名 Author	SOEUNG SOPHA
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation Factors Influencing Engagement of Private Tutoring at Cambodian Upper Secondary Schools			
論文審査担当者 Dissertation Committee Members			
主 査 Committee Chair	教授 堀田 泰司	印 Seal	
審査委員 Committee Member	教授 吉田 和浩		
審査委員 Committee Member	教授 清水 欽也		
審査委員 Committee Member	教授 丸山 恭司 (人間社会科学研究科)		
審査委員 Committee Member	教授 北村 友人 (東京大学大学院教育学研究科)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本研究は、カンボジアの高等学校における現役教員による有料の時間外個人指導（プライベート・チュータリング、以下 P. T.）が、政府の P. T. 撲滅のために実施した教員給料の引き上げや高等学校卒業試験制度の改革後も減少する傾向が全く見られず、現在も全国的に行われている現状に対し、継続を促す要因は何か検証することを目的としている。調査は、プノンペン市を含む7地域（経済格差の4区分別）の12校から862組の生徒と親、そして198名の教員からオンライン・アンケート調査の回答を得た。また、質問票では、生徒には9つの側面から、親に対しては8つの側面、そして教員には、5つの側面から質問し回答を得た。さらに質的分析を行うために、29名の生徒、41名の親、45名の教員、8名の校長、3名の教育長、そして、1名の政府高官、計127名にオンラインの聞き取り調査を行った。</p> <p>分析は、カンボジアにおける P. T. の先行研究が指摘した6つの課題に焦点を当て、これまでの先行研究ではほとんど検証されてこなかった、3年生の7割以上が P. T. に参加している高校に焦点を当て、参加生徒と親をペアごとに分析し、教員、生徒、親の意識や行動を比較分析した。教員や生徒の P. T. への現在の参加状況や各地域での普及状況について統計的に分析し、全体の傾向を見ると同時に、聞き取り調査を通して、教員・生徒・親の P. T. 活動の継続にどのような促進・阻害要因が影響しているか検証した。</p> <p>論文は、8章で構成され、問題の所在、歴史的背景、先行研究、調査方法、教員並びに生徒と親の実態調査のデータ分析とディスカッション、そして、結論について論述している。審査委員から、本研究は、カンボジアで継続している P. T. の実態を詳しく分析しており、教員、生徒、親の意識や行動を量的・質的に分析し、その実態を総合的に検証した研究であることが高く評価された。また、P. T. への参加率が最も高い高校3年生を対象に調査することで、改革が行われた高校の全国統一卒業試験の特に理数科目の不合格を懸念し、多くの生徒が P. T. に通っているという新たな実態を論証した点も、高く評価された。なお、申請者はこれまで、査読つき論文3編、国際会議での発表2編を公表した。以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士（学術）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			